

# 第17回 岐阜県CSF有識者会議

日時：令和7年1月6日（月）  
15時30分～

場所：岐阜県庁6階 特別会議室

（議 題）

1. 農場を守る対策
2. 野生いのしし対策
3. その他

# 第17回岐阜県CSF有識者会議 名簿

## ■委 員

(50音順、敬称略)

|       |                                                                   |     |
|-------|-------------------------------------------------------------------|-----|
| 青木 博史 | 日本獣医生命科学大学 獣医学部 教授                                                |     |
| 浅井 鉄夫 | 岐阜大学大学院 連合獣医学研究科 教授                                               |     |
| 石黒 利治 | (公社)岐阜県獣医師会 相談役(前会長)                                              |     |
| 伊藤 貢  | (有)あかばね動物クリニック獣医師<br>(一社)日本養豚開業獣医師協会 代表理事                         |     |
| 江口 祐輔 | 麻布大学 教授 フィールドワークセンター長                                             | 欠席  |
| 小寺 祐二 | 宇都宮大学 農学部 雑草管理教育センター 准教授                                          | 欠席  |
| 只野 亮  | 岐阜大学 応用生物科学部 生産環境科学課程<br>応用動物科学コース 動物ゲノム多様性学分野 准教授                | 欠席  |
| 平田 滋樹 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構<br>畜産研究部門 動物行動管理研究領域 動物行動管理グループ 上級研究員    |     |
| 山本 健久 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構<br>動物衛生研究部門 越境性家畜感染症研究領域 疫学・昆虫媒介感染症グループ長 | Web |

## ■ワーキンググループアドバイザー

|       |                          |  |
|-------|--------------------------|--|
| 迫田 義博 | 北海道大学大学院 獣医学研究院微生物学教室 教授 |  |
|-------|--------------------------|--|

## ■オブザーバー

|       |                    |     |
|-------|--------------------|-----|
| 永田 知史 | 農林水産省 消費・安全局 動物衛生課 | Web |
| 密田 千尋 | 農林水産省 消費・安全局 動物衛生課 | Web |
| 吉野 毅  | 岐阜県養豚協会 会長         |     |
| 大野 恵章 | (一社)岐阜県猟友会 会長      | Web |
| 所 千加  | ぎふジビエ協会 会長         |     |

## ■県関係

|       |        |
|-------|--------|
| 河合 孝憲 | 副知事    |
| 足立 葉子 | 農政部長   |
| 渡辺 幸司 | 環境生活部長 |
| 高井 尚治 | 農政部次長  |

# 議題 1 農場を守る対策

---

# (1) 飼養豚のワクチン接種による抗体付与状況

(R6.1 2.10現在)

- 令和元年10月の初回接種以降、ワクチン接種と定期的な抗体検査を実施。
- 母豚の抗体レベルや離乳時期を確認したうえで、追加接種を含め、農場ごとに適した時期に接種を実施。
- 令和6年度下半期は、母豚の陽性率が低い傾向（次ページ参照）。

## <免疫付与率の推移>

| 検査時期     | 母豚            | 肥育豚           |               |
|----------|---------------|---------------|---------------|
| R元年度 下半期 | 96% (223/233) | 99% (387/390) | と畜場出荷時点       |
| R2年度 上半期 | 95% (377/395) | 69% (394/574) |               |
| R2年度 下半期 | 93% (343/369) | 49% (389/790) | 83% (334/401) |
| R3年度 上半期 | 94% (583/620) | 51% (410/810) | 96% (333/347) |
| R3年度 下半期 | 84% (521/622) | 54% (418/775) | 93% (272/292) |
| R4年度 上半期 | 90% (595/663) | 63% (496/788) | 93% (290/312) |
| R4年度 下半期 | 78% (419/534) | 57% (410/724) | 92% (721/785) |
| R5年度 上半期 | 86% (519/602) | 67% (476/709) | 84% (740/878) |
| R5年度 下半期 | 83% (433/523) | 55% (451/813) | 80% (727/914) |
| R6年度 上半期 | 82% (551/670) | 59% (551/723) | 84% (656/779) |
| R6年度 下半期 | 68% (105/154) | 54% (169/311) | 検査中           |

※「と畜場出荷時点」以外のデータの陽性 → ELISA検査 陽性(S/P値0.1以上)

※「と畜場出荷時点」のデータの陽性 → ELISA検査 陽性・疑陽性(S/P値0.05以上)  
中和試験による中和抗体価1倍以上(R2年度は2倍以上)

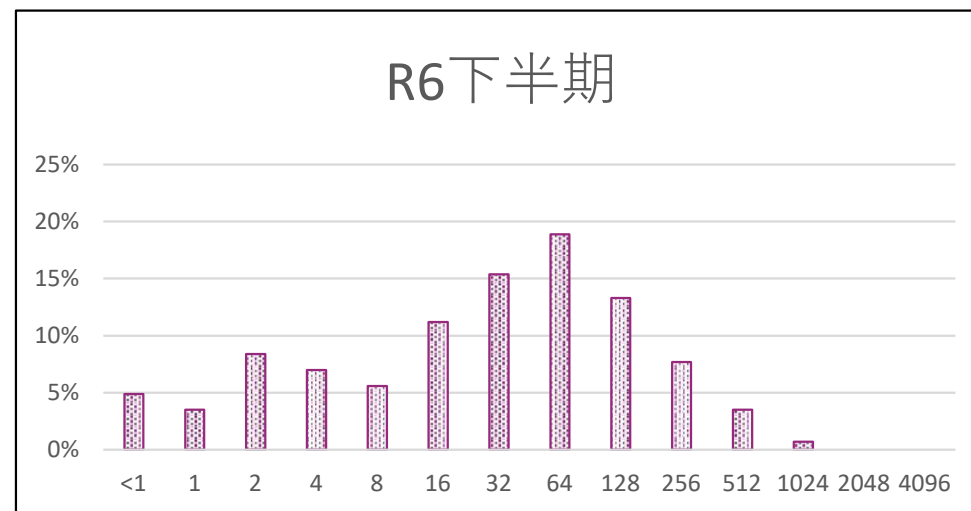
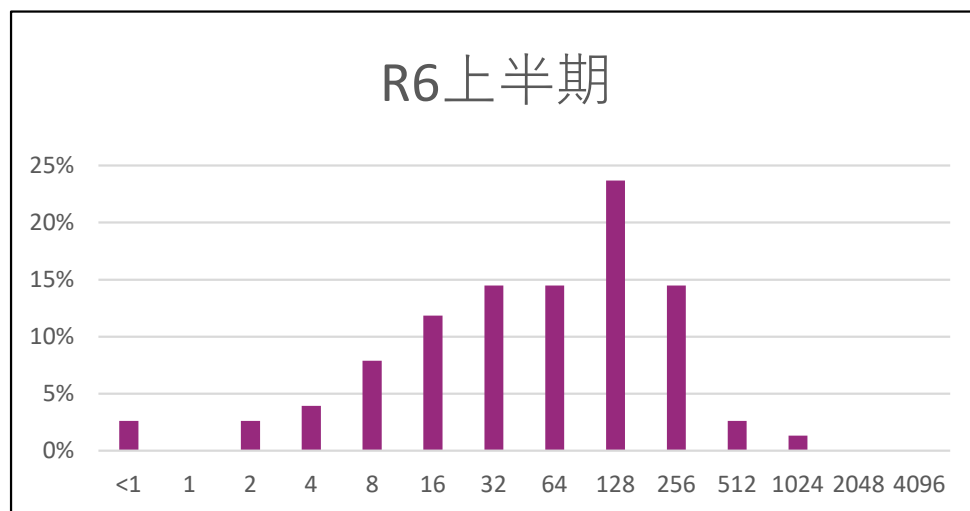
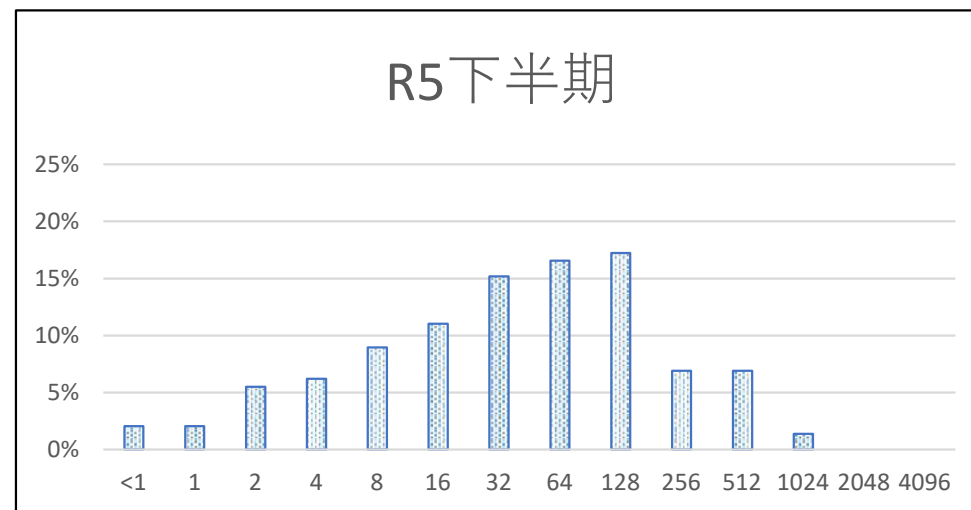
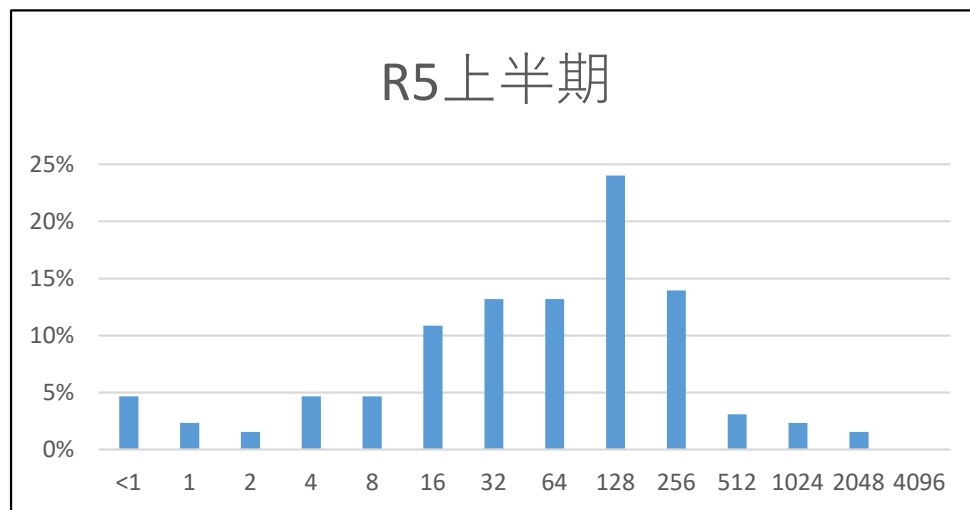
※令和4年度下半期以降の「と畜場出荷時点」のデータは、と畜場で採材した個体のほか、出荷直前に農場で採材した個体を含む。

※令和6年度下半期の「と畜場出荷時点」のデータは、中和試験未実施。

# (1) 飼養豚のワクチン接種による抗体付与状況

- 令和6年度下半期の母豚は、18農家中5農家分の検査結果のみ。
- 当該5農家の中和試験を実施し、中和抗体価1倍以上が95%であることを確認。

＜5農家の母豚の中和抗体価の分布の推移＞

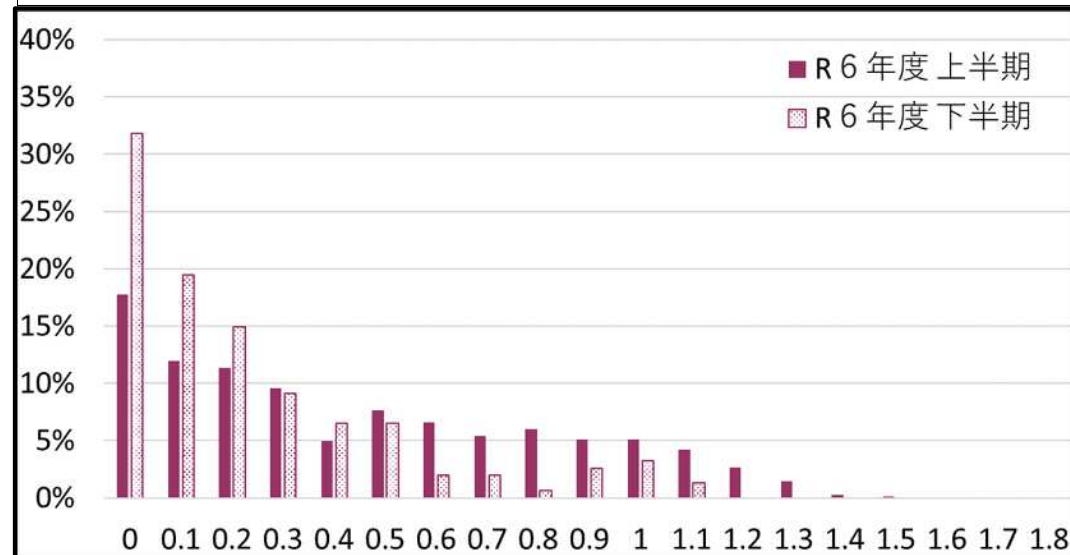
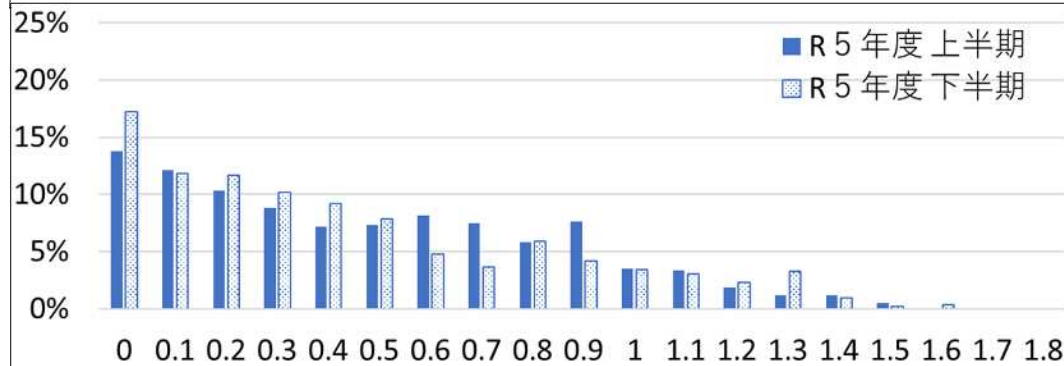
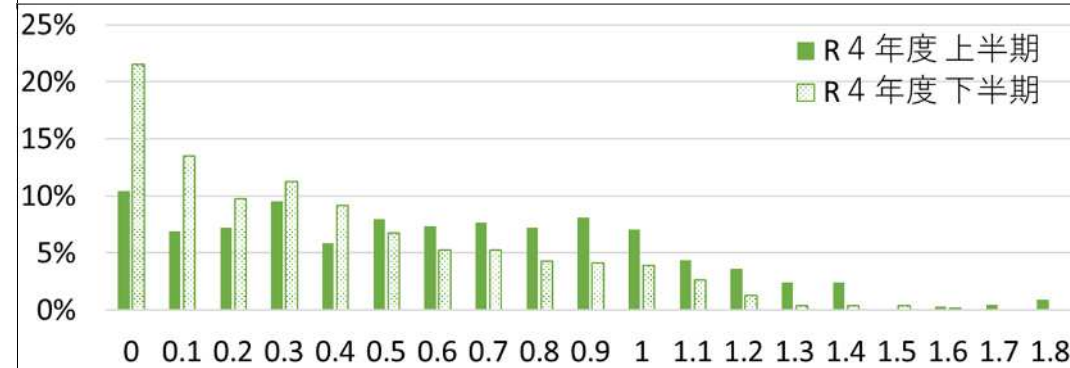
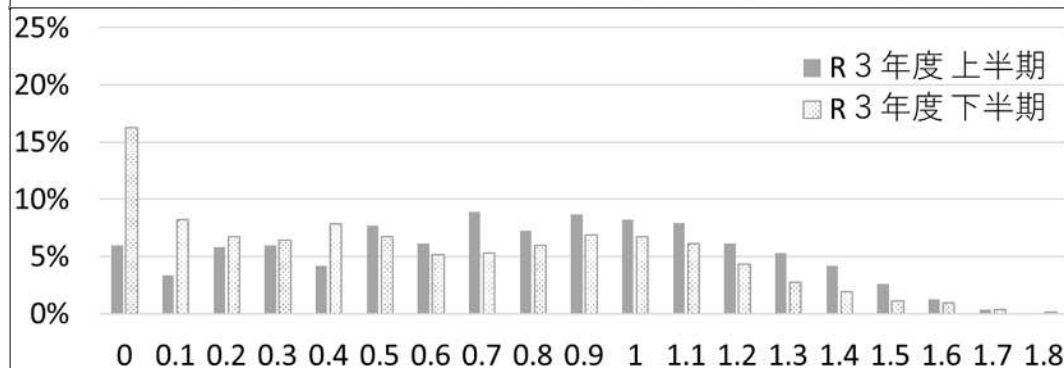
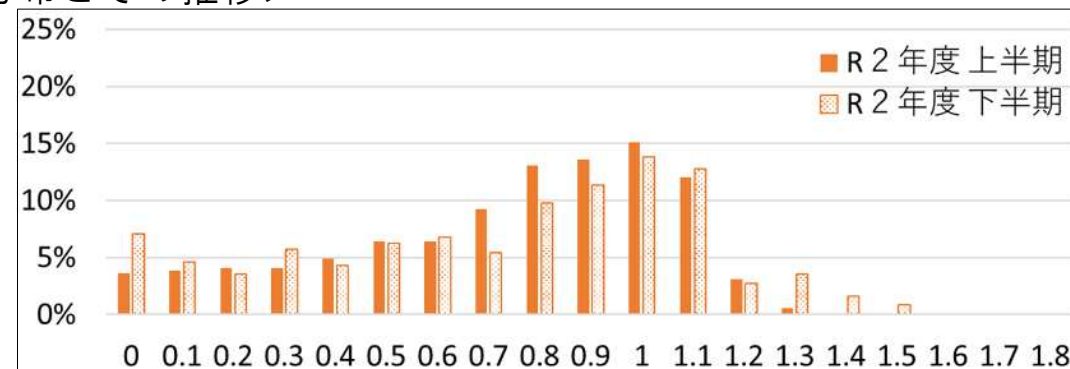
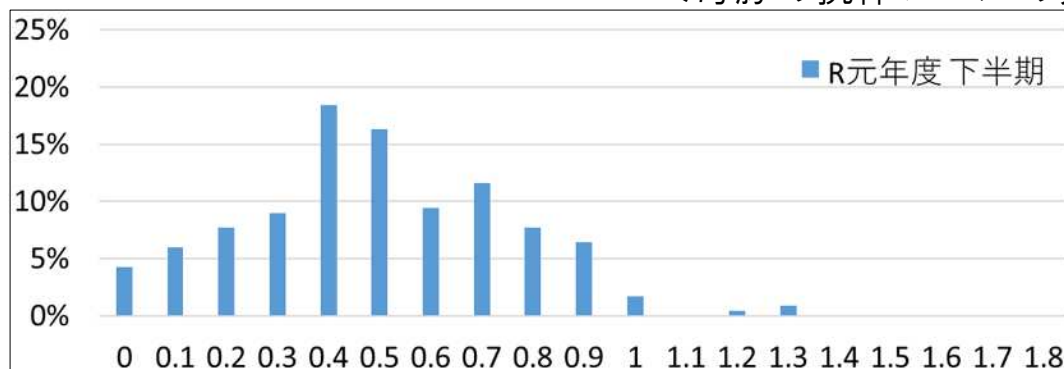


# （１）飼養豚のワクチン接種による抗体付与状況

（R6.1 2.10現在）

- 令和6年度下半期の母豚の抗体価分布は、低抗体価の割合が多い傾向 ⇒ 検査結果が揃った上で、状況を再確認

＜母豚の抗体レベルの分布とその推移＞



※母豚の抗体レベルの分布は、ELISA検査によるS/P値で作成。

## (2) 発生農場等の再開状況

- 豚熱発生農場等 22 農場のうち 16 農場が再開。飼養頭数は当時の 93.5% に回復（R6.12.1 現在）。

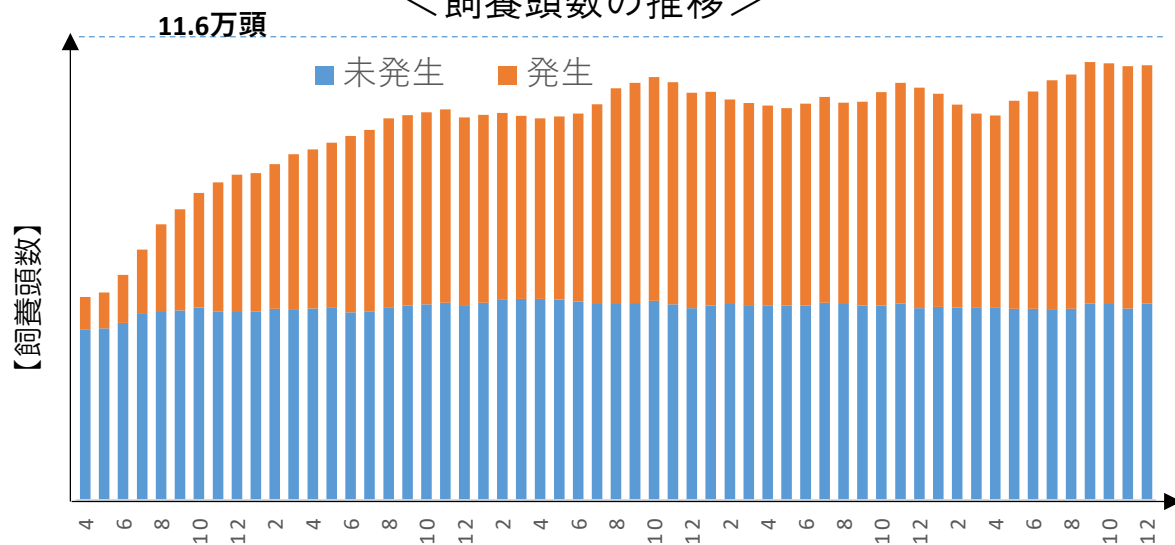
＜県豚熱発生等農場の再開状況（R6.12.1 現在）＞

| 豚熱発生<br>農場等 |       |      |      | 再開率   |
|-------------|-------|------|------|-------|
|             | 出荷再開  | 再開未定 | 廃業   |       |
| 22 農場       | 16 農場 | 3 農場 | 3 農場 | 72.7% |

＜県飼養頭数の状況（R6.12.1 現在）＞

| 豚熱発生前     | 現在の飼養頭数   | 回復率   |
|-----------|-----------|-------|
| 115,806 頭 | 108,234 頭 | 93.5% |

＜飼養頭数の推移＞



### (3) 令和7年度の「農場を守る対策」

#### ① 免疫付与状況等検査に基づくワクチンの適期接種の継続

- ・ 農家ごとの接種適期及び免疫付与率の推移確認のため、年2回の検査を継続。
- ・ 免疫付与状況を踏まえた母豚や肥育豚のワクチン接種を実施。

豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針に基づく発生予防及びまん延防止措置の実施に当たっての留意事項について  
(令和6年10月31日付け6消安第4352号農林水産省消費・安全局長通知。)

免疫付与状況確認検査頻度の変更

旧) 半年毎      ⇒      新) 1年毎

#### ② 養豚農家への情報発信とワクチン接種関連研修の実施

- ・ 「家畜衛生情報」などによる農家への情報提供を実施。
- ・ 接種技術等の維持のため、講習会やフォローアップ研修を実施。

(令和6年度 実績)

- ・ 「家畜衛生情報」などによる注意喚起・情報提供を実施。
- ・ 新規登録希望者のための「登録飼養衛生管理者研修」を、各家畜保健衛生所で開催。(随時)
- ・ 「登録飼養者衛生管理者フォローアップ研修」をWEBで開催。(9月20日、2月実施予定)
- ・ 「豚熱ワクチン接種に関する講習会」をWEBで開催。(12月5日)

(令和7年度 計画)

- ・ 「家畜衛生情報」などによる注意喚起・情報提供を実施。
- ・ 「登録飼養者衛生管理者フォローアップ研修」「豚熱ワクチン接種に関する講習会」をWEBで開催。



## (3) 令和7年度の「農場を守る対策」

### ③ 防疫訓練等の実施

- ・ 農場における豚熱やアフリカ豚熱の発生、野生いのししにおけるアフリカ豚熱感染発生に備え、情報伝達や防疫措置などの演習を実施。
- ・ 農場に対して防疫措置に関する注意喚起を実施。

#### (令和6年度 実績)

- ・ 農場に対し、石灰による一斉消毒、野生動物の侵入防止柵などの点検について、注意喚起を実施。(9月6日～27日)
- ・ 県立森林文化アカデミーにて、野生いのししにおけるアフリカ豚熱感染発生に備えた防疫演習を実施。(11月12日)

#### (令和7年度 計画)

- ・ 机上訓練を実施。
- ・ 農場に対し、石灰による一斉消毒、野生動物の侵入防止柵などの点検について、注意喚起を実施。
- ・ 農場における豚熱発生を想定した防疫演習を実施。
- ・ 野生いのししにおけるアフリカ豚熱感染発生に備えた防疫演習を実施。

### ④ 人材育成

- ・ 家畜保健衛生所職員のスキルアップのため、大学や民間家畜診療施設などに職員を派遣するほか、産業動物獣医師や県職員獣医師の確保に努める。

#### (令和6年度 実績)

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 北海道大学          | 1名(7月29日～10月25日) |
| (有)あかばね動物クリニック | 1名(8月5日～8月30日)   |
| 宇都宮大学          | 1名(8月26日～9月20日)  |
- ・ 国が主催する家畜衛生講習会等に職員10名が参加。

#### (令和7年度 予定)

- ・ 大学や民間家畜診療施設に3名派遣。
- ・ 家畜衛生講習会等に参加。

## 議題2 野生いのしし対策

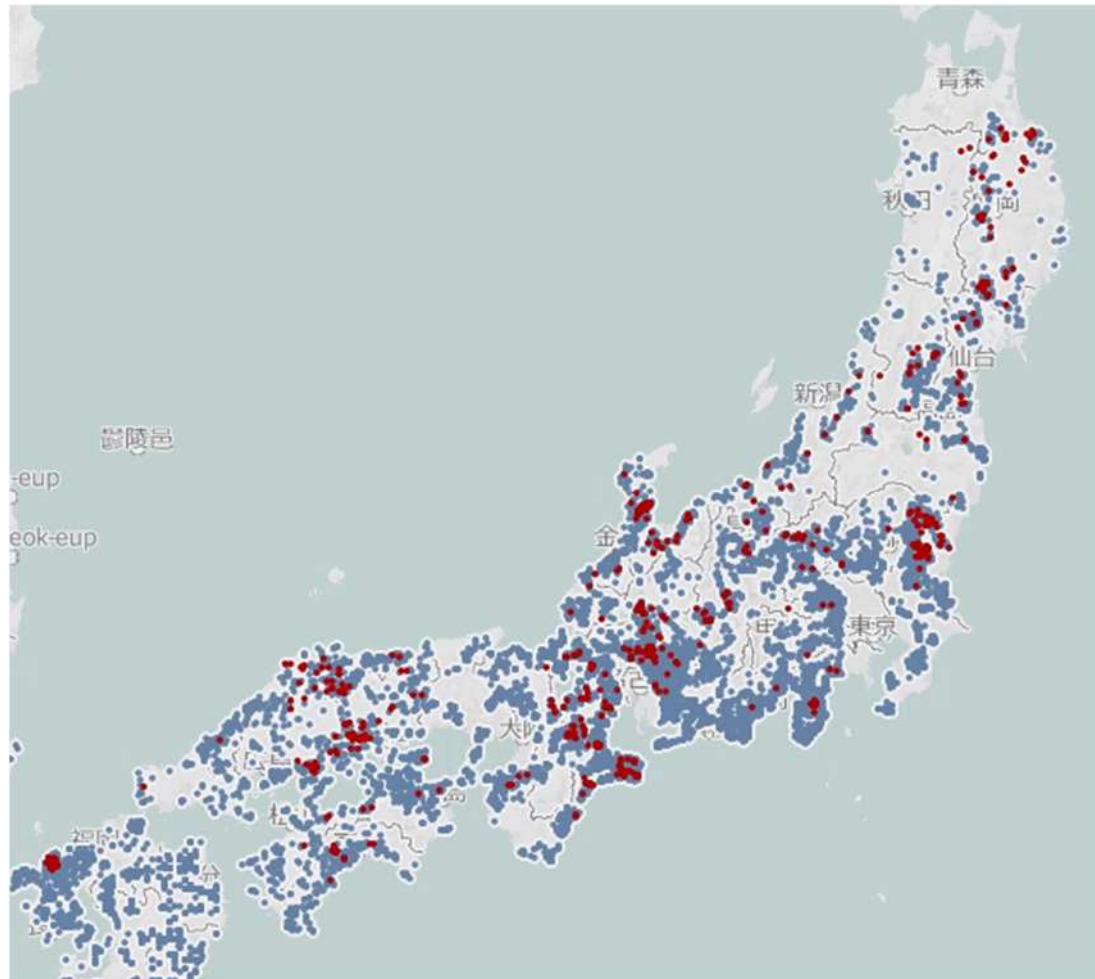
---

## (1) 全国の感染いのししの現状

- 全国38都府県で野生いのししの豚熱感染を確認。

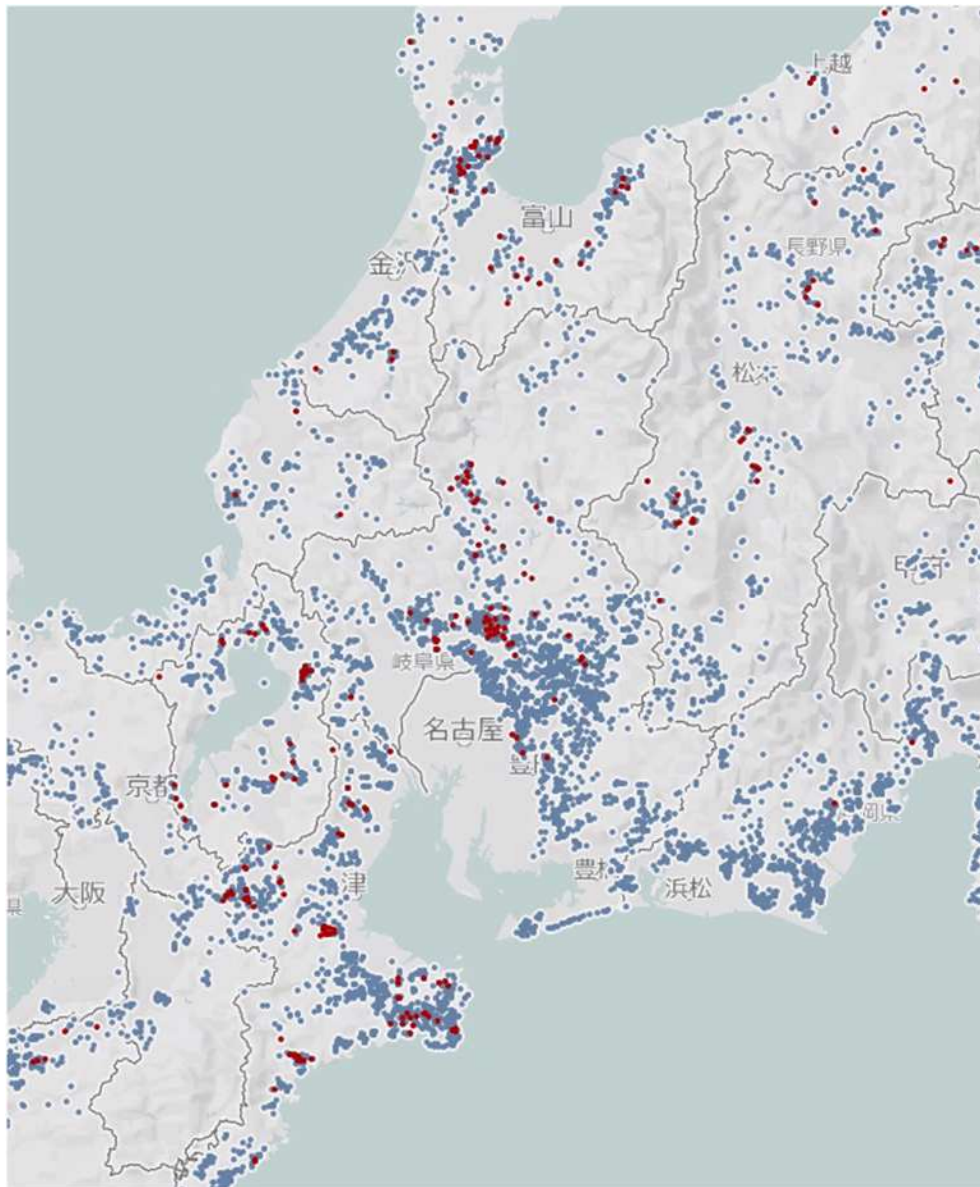
※未確認：北海道、千葉県、福岡県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

<全国の感染いのしし確認地点 (R6. 6. 7～R6. 12. 4)>



## (2) 近隣県の感染いのししの状況

<近隣県の感染いのしし確認地点 (R6. 6. 7～R6. 12. 4)>



> <近隣県の野生いのしし検査結果 (R6. 6. 7～R6. 12. 4)>

| 県名  | 陽性 (頭) | 陰性 (頭) | 検査数 (頭) | 陽性率   | 陽性率 (前年) |
|-----|--------|--------|---------|-------|----------|
| 富山県 | 43     | 1, 057 | 1, 100  | 3. 9% | 1. 3%    |
| 石川県 | 6      | 367    | 373     | 1. 6% | 2. 9%    |
| 福井県 | 3      | 286    | 289     | 1. 0% | 8. 4%    |
| 長野県 | 28     | 621    | 649     | 4. 3% | 3. 3%    |
| 愛知県 | 4      | 874    | 878     | 0. 5% | 1. 8%    |
| 三重県 | 89     | 2, 506 | 2, 595  | 3. 4% | 2. 0%    |
| 滋賀県 | 32     | 483    | 515     | 6. 2% | 2. 6%    |
| 岐阜県 | 62     | 1, 779 | 1, 841  | 3. 4% | 4. 7%    |

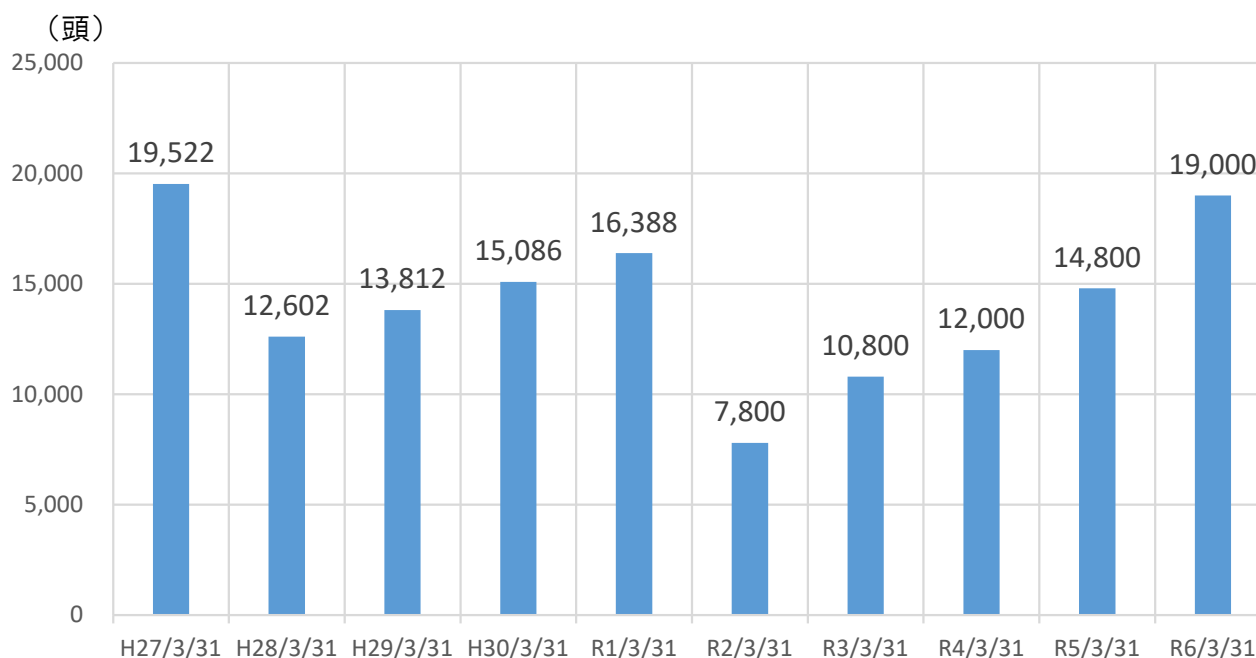
※「陽性率 (前年)」の期間はR5. 7. 14～R6. 1. 10

### (3) 県内のいのししの現状

#### ① 生息頭数

- 平成30年度末当時、約1.6万頭生息していたとされる野生いのししは、豚熱まん延などの影響により、令和元年度末までに半減。
- 令和6年度調査の結果、豚熱発生前の水準並みに回復と推定。  
[H31.3 末：16,388 頭] → [R2.3 末推計値：約7,800頭] → [R6.3 末推計値：約19,000頭]
- 特に、中濃地域（美濃加茂市、可児市、加茂郡南部）から東濃地域（瑞浪市）で密度が高い。

＜県内野生いのしし生息頭数の推移（各年度末）＞

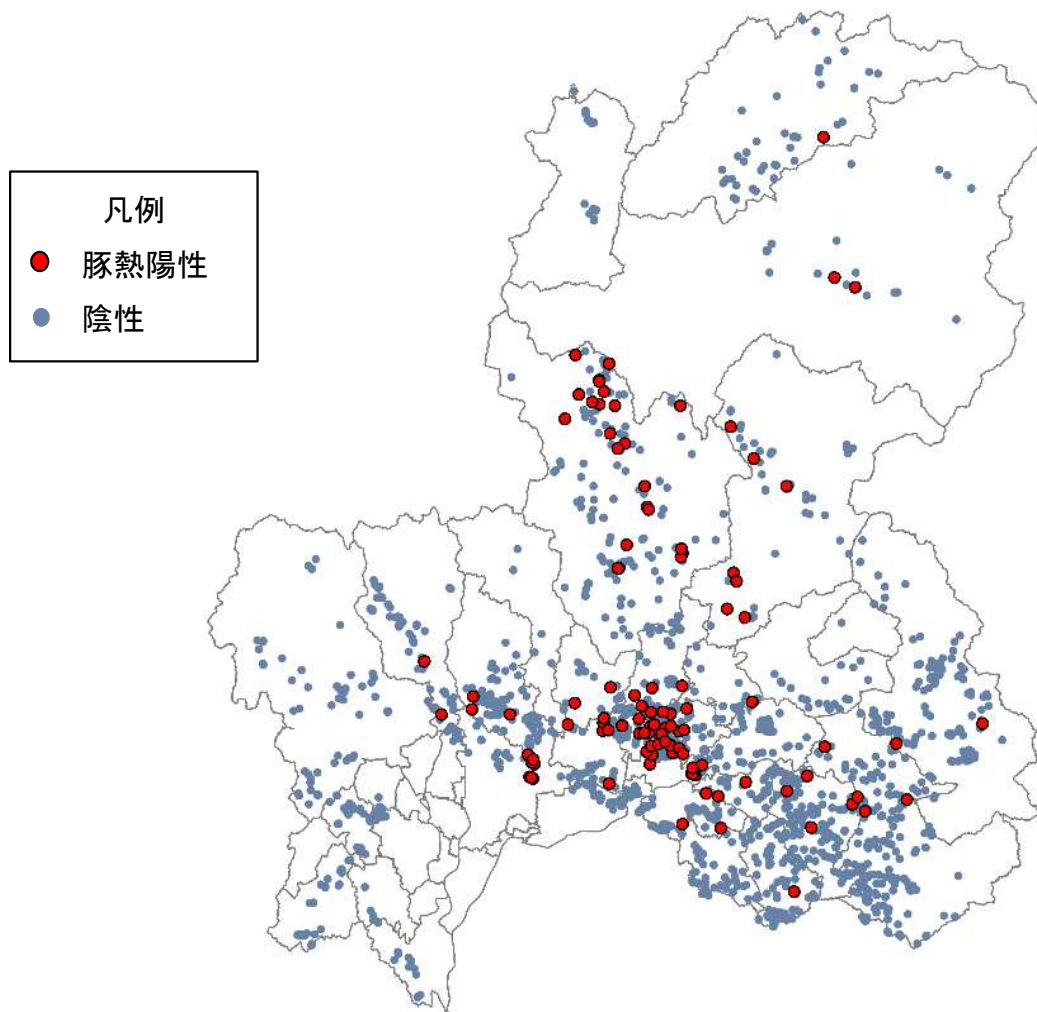


### (3) 県内のいのししの現状

#### ② 感染状況

- 令和6年度は、12月20日時点で、110頭の感染を確認（前年度同期間は138頭）。
- 特に、美濃加茂市周辺及び、関市、郡上市で多くの感染を確認。

＜令和6年度 野生いのしし捕獲・発見地点（R6.12.20時点）＞



(C)岐阜県

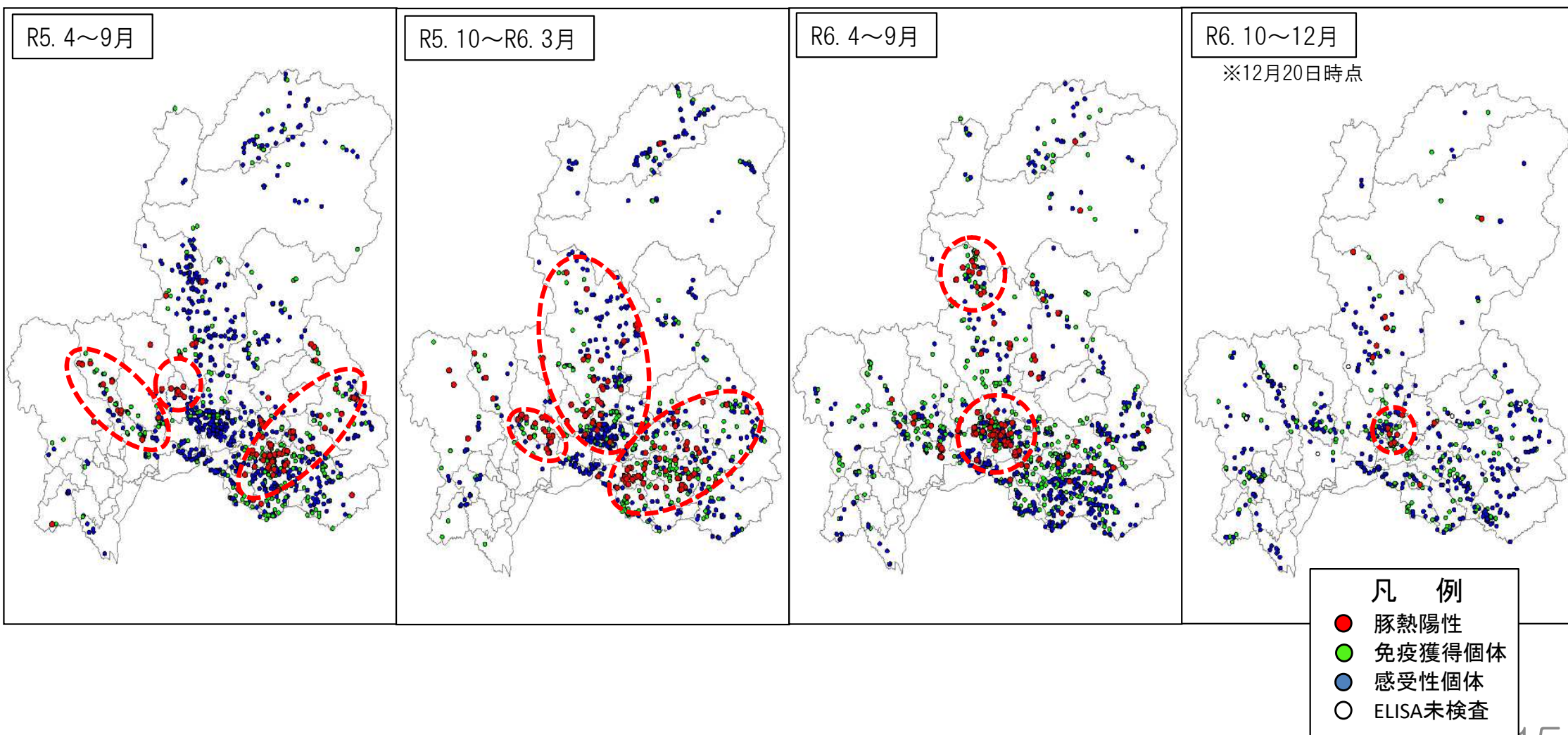
| 地域 | 市町村名  | 頭数  |
|----|-------|-----|
| 岐阜 | 岐阜市   | 7   |
|    | 山県市   | 3   |
|    | 本巣市   | 2   |
| 中濃 | 関市    | 12  |
|    | 美濃市   | 3   |
|    | 郡上市   | 24  |
|    | 美濃加茂市 | 25  |
|    | 可児市   | 3   |
|    | 富加町   | 5   |
|    | 川辺町   | 2   |
|    | 七宗町   | 1   |
|    | 御嵩町   | 2   |
| 東濃 | 瑞浪市   | 5   |
|    | 土岐市   | 1   |
|    | 中津川市  | 2   |
|    | 恵那市   | 3   |
| 飛騨 | 高山市   | 2   |
|    | 飛騨市   | 1   |
|    | 下呂市   | 7   |
| 計  | 計     | 110 |



### (3) 県内のいのししの現状

- 令和5年度の上半期は、東濃・中濃・岐阜市から本巣市を中心に陽性が確認されていたが、下半期は、郡上市・可茂地域及び岐阜市・山県市近辺でも多く確認された。
- 令和6年度においては、郡上市北部、美濃加茂市を中心とした地域で陽性が多く確認されたが、下半期においては減少傾向となっている。

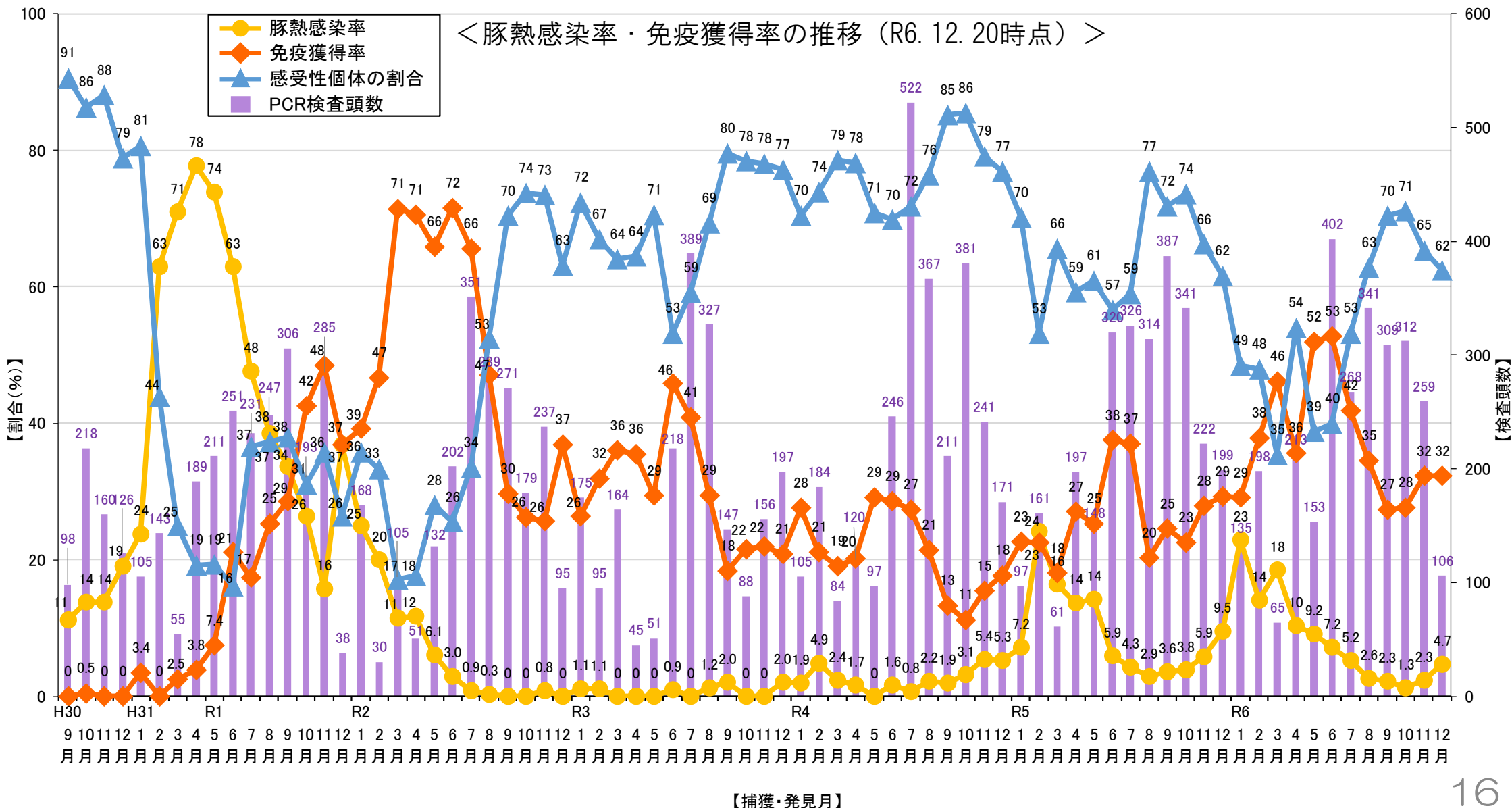
#### <半年毎の感染いのしし確認地点>



# (3) 県内のいのししの現状

## ③ 免疫獲得率

- 令和2～4年度までは年々減少傾向にあったが、令和5年から上昇傾向に転じ、令和6年5～6月には50%を上回った。

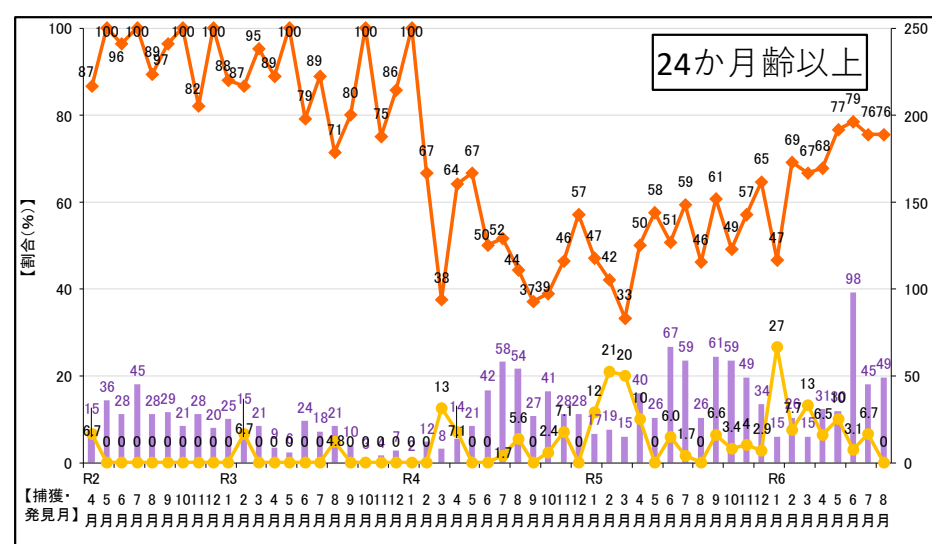
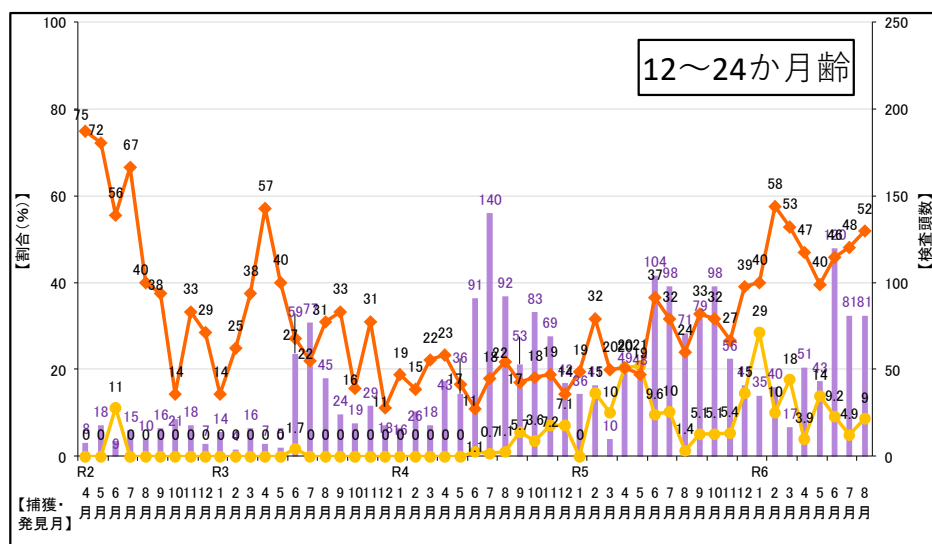
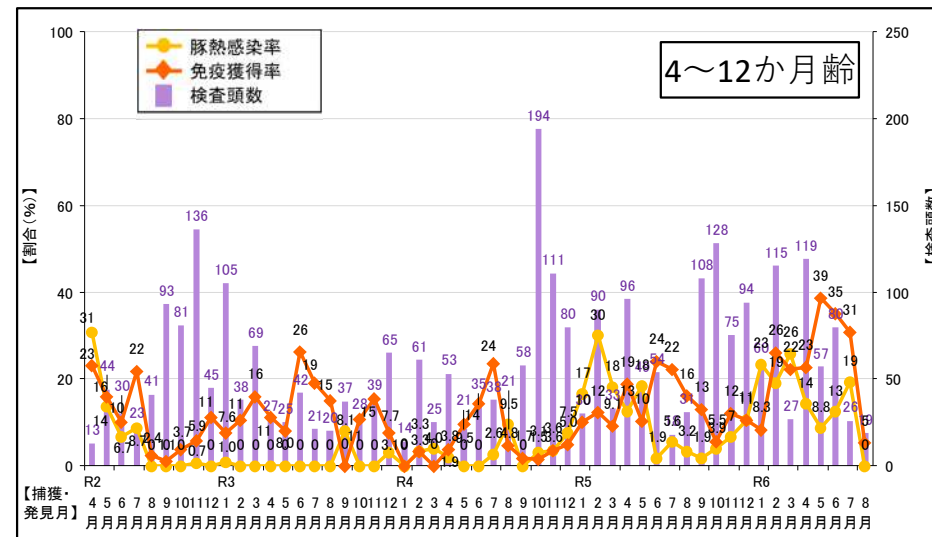
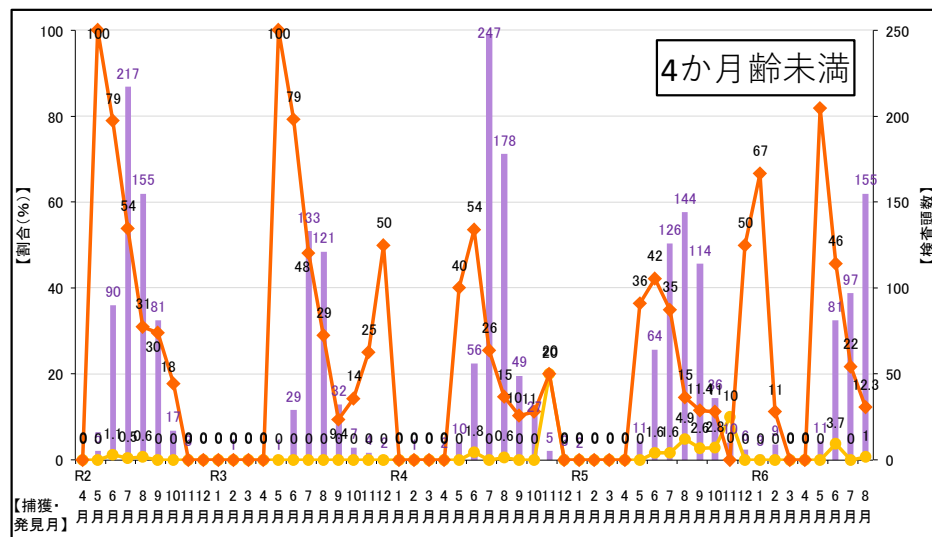




### (3) 県内のいのししの現状

- 令和5年から12か月齢以上で免疫獲得率が上昇傾向にあり、24か月齢以上では直近7カ月は60%以上で推移している。

#### <月齢4区分別 豚熱感染率・免疫獲得率の推移>



## (4) 令和7年度の「野生いのしし対策」(野生いのししの捕獲強化)

### ① 捕獲の実績

- 豚熱発生前は1万頭以上、豚熱発生後は、6千頭から8千頭程度を捕獲。
- 令和2年度以降有害捕獲は増加傾向で、狩猟については2千頭程度で推移。

＜野生いのししの捕獲頭数＞

| 年度   | H30    | R1    | R2    | R3    | R4    | R5    | R6(11月末時点) |
|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|
| 調査捕獲 | 552    | 1,574 | 2,502 | 1,468 | 1,684 | 1,421 | 1,486      |
| 有害捕獲 | 8,310  | 3,581 | 2,368 | 2,767 | 3,685 | 4,470 | 4,668      |
| 狩猟   | 2,114  | 720   | 1,948 | 1,970 | 2,292 | 2,010 | (終了後集計)    |
| 合計   | 10,979 | 5,875 | 6,818 | 6,205 | 7,661 | 7,901 | 6,154      |

※ 調査捕獲はその他捕獲を含む。R1の狩猟は広域捕獲

### ② 捕獲目標頭数

豚熱浸潤状況サーベイランスのための血液検体を確保するとともに、豚熱感染拡大抑制のため、  
捕獲目標頭数      年間    10,000頭    とする。

- 令和6年度生息頭数推計調査結果から、生息頭数(密度)は地域によって偏りがあることが確認されたため、これを反映した地域別の目標頭数を設定。

## (4) 令和7年度の「野生いのしし対策」(野生いのししの捕獲強化)

### ③ 捕獲の対策

- 県が実施する「調査捕獲」、市町村が実施する「有害捕獲」への支援を引き続き実施。
- 夏期は「有害捕獲」、狩猟期は「狩猟」を中心として捕獲を進め、捕獲頭数が少ない春期(4～5月)及び冬期(2月～3月)は調査捕獲にて補完。
- 豚熱陽性個体が連続して確認された地域は、調査捕獲期間の延長などにより、集中捕獲を実施。

#### (調査捕獲 実施状況) (R6. 12. 5時点)

- 次の期間に調査捕獲を実施。  
北部(4/13-5/2・6/3-6/27・7/25-8/13・9/21-10/15)  
南部(4/13-5/2・6/3-6/27・9/21-10/15・2/7-2/26)
- 感染いのししの確認が続いた地域で集中捕獲を、これまでに4回実施。  
1回目(5/3-5/22) 関市・美濃加茂市・可児市・富加町・川辺町・八百津町・御嵩町  
2回目(6/28-7/17) 岐阜市・関市・美濃市・瑞浪市・恵那市・山県市・美濃加茂市・富加町・川辺町・八百津町  
3回目(8/28-9/16) 郡上市  
4回目(10/18-11/15) 関市・美濃加茂市

### ④ 検体の確保

- 県下全域で年間を通してサーベイランスを継続。
- 県が実施する調査捕獲に加え、市町村や県猟友会と連携し、有害捕獲や狩猟からの血液検体を確保。

| 年度   | R2      | R3      | R4      | R5      | R6(11月末時点) |
|------|---------|---------|---------|---------|------------|
| 調査捕獲 | 1, 891件 | 1, 013件 | 1, 171件 | 1, 106件 | 1, 083件    |
| 有害捕獲 | 85件     | 661件    | 1, 023件 | 1, 187件 | 898件       |
| 狩猟   | 245件    | 305件    | 429件    | 502件    | 221件       |
| 合計   | 2, 221件 | 1, 979件 | 2, 623件 | 2, 795件 | 2, 202件    |

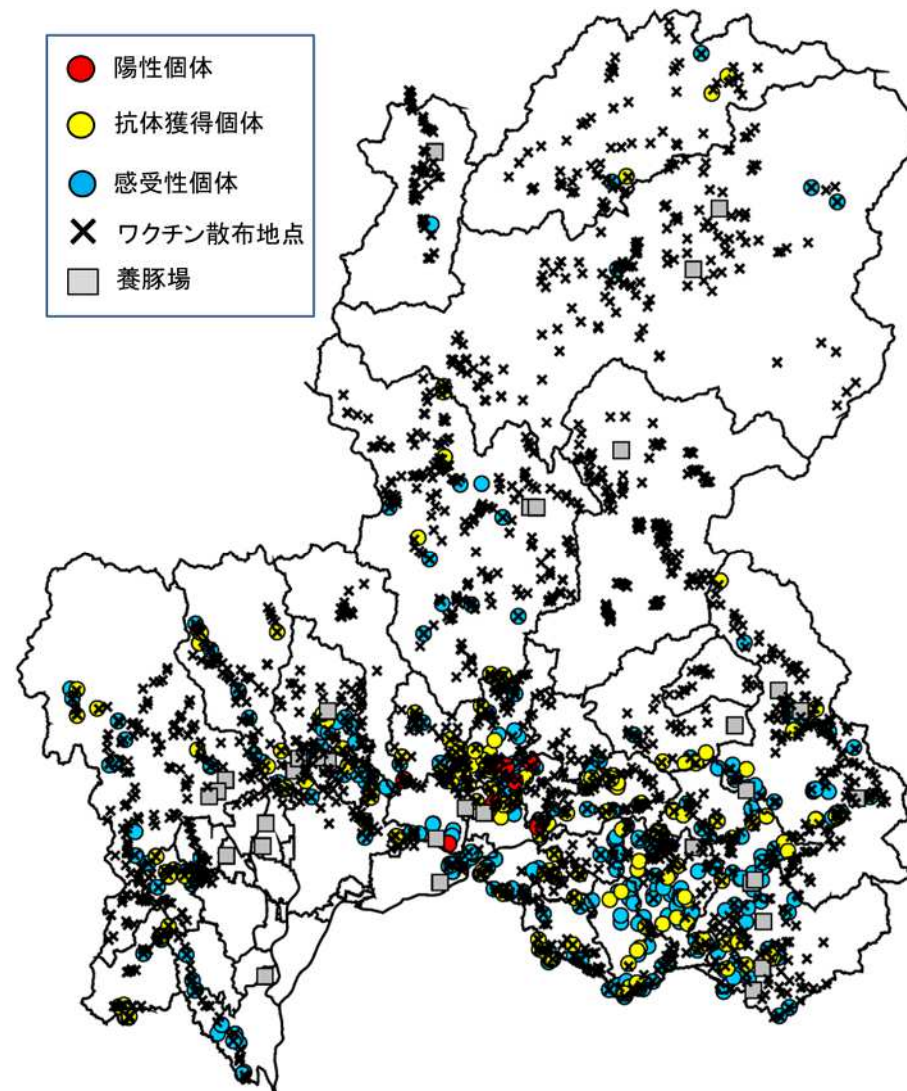
## （４）令和７年度の「野生いのしし対策」（経口ワクチン散布）

### ① 経口ワクチン散布方針（令和７年度案）

#### ○ 経口ワクチン散布方針（案）

国の指針に基づき、農場周辺や県境付近を中心（特に県南部地域）に、重点散布を実施するとともに、散布地点の見直しや野生動物等の状況に応じた散布方法の推進といった「摂食率の向上にむけた取組み」を継続。

＜８月下旬の散布地点及び感染状況（R6年9～10月）＞



#### ○ 経口ワクチン散布方法

- ・ 年間２期４回の散布を実施。
- ・ 散布地点の増加などにより、引き続き農場周辺（1km圏を除く）・県境及び感染いのしし確認地点周辺や感受性のしし密度が高い地域（美濃加茂市、関市、郡上市など）に重点散布。
- ・ 県境付近では、近隣県と連携したワクチン散布を実施。
- ・ 散布地点の野生動物等の状況に応じた散布方法を推進。

## (4) 令和7年度の「野生いのしし対策」(経口ワクチン散布)

### ② 散布地点の見直し(令和6年度の実績と令和7年度の計画)

#### ○令和6年度の実績

- ・令和5年度に年間を通じて、いのしし痕跡がなかった地点を変更・新規追加(9月末:247/2002地点)。

#### ○令和7年度の計画

- ・摂食状況調査による散布地点変更を実施。
  - 野生いのししの痕跡(摂食状況調査及び散布時の記録)をもとに、年間を通して痕跡のない散布地点を変更。
  - 変更後の散布地点も含め、ワクチン殻の摂食痕による摂食状況調査を継続。

### ③ 散布方法の検討(令和6年度の実績と令和7年度の計画)

#### ○令和6年度の実績

- ・令和5年度実証試験の結果を受け、改良型の散布方法を他地域に拡大。
- ・摂食率向上に向けた散布方法の比較試験も実施。

#### ○令和7年度の計画

- ・散布地点の野生動物等を考慮し、他動物による摂食が懸念される地点では「改良型」、いのししの誘引が必要な地点では「ばら撒き型」など、地点に応じた散布方法を推める。

#### <令和6年度 県北部地域の摂食地点率>

| 散布時期 |     |             | 調査<br>地点数 | 摂食痕あり<br>地点数 | 摂食<br>地点率 |
|------|-----|-------------|-----------|--------------|-----------|
| 前期   | 1回目 | 5/15~19     | 904       | 306          | 33.8%     |
|      | 2回目 | (中止)        | —         | —            | —         |
| 後期   | 1回目 | 8/28~9/3    | 889       | 409          | 46.0%     |
|      | 2回目 | 10/23~10/27 | 901※      | (調査中)        | (調査中)     |

※ 速報値

#### <令和6年度 県南部地域の摂食地点率>

| 散布時期 |     |             | 調査<br>地点数 | 摂食痕あり<br>地点数 | 摂食<br>地点率 |
|------|-----|-------------|-----------|--------------|-----------|
| 前期   | 1回目 | 5/15~19     | 1,098     | 412          | 37.5%     |
|      | 2回目 | 8/28~9/3    | 1,113     | 494          | 44.4%     |
| 後期   | 1回目 | 10/23~10/27 | 1,122※    | (調査中)        | (調査中)     |
|      | 2回目 | (1/22~1/26) | 1,143※    | (未実施)        | (未実施)     |

※ 速報値

| 摂食地点率<br>(9月末まで) |     |
|------------------|-----|
| R6(平均)           | 41% |
| R5(平均)           | 37% |



## (4) 令和7年度の「野生いのしし対策」(経口ワクチン散布)

### 【摂食率向上に向けた散布方法の比較試験】

- ・ 2種類の散布方法(「改良型」と「ばら撒き型」)で摂食状況を確認。

#### (試験方法)

- ・ 試験場所：関ヶ原町地内 25地点(うち15地点にトレイルカメラを設置)
- ・ 散布回数：「改良型」散布、「ばら撒き型」散布を交互に2反復実施
- ・ 確認方法：トレイルカメラ画像による出現動物の確認及びワクチン殻の回収による摂食痕の確認

#### (トレイルカメラ確認結果)

- ・ 15地点すべてでタヌキの出現及び餌、ワクチン等の摂食行動を確認
- ・ いのししの出現確認・・・「改良型」散布時 → 15地点中4地点(27%)  
「ばら撒き型」散布時 → 15地点中6地点(40%)

#### (ワクチン殻による摂食痕確認)

- ・ いのししによる摂食確認・・・「改良型」散布時 → 25地点中11地点(44%)  
「ばら撒き型」散布時 → 25地点中3地点(12%)  
※2回の散布において、重複地点は1地点としてカウント



写真1 (改良型)

大きな石を積んで囲む散布方法



写真2 (ばら撒き型)

地上に直接散布する方法

#### ＜散布方法による摂食地点率(ワクチン殻の摂食痕による調査)＞

| 散布方法         | 散布日       | 摂食地点率<br>(いのしし) | 摂食率<br>(いのしし) | 摂食率<br>(その他動物) | ロスト率       | 未摂食率       |
|--------------|-----------|-----------------|---------------|----------------|------------|------------|
| 改良型          | 8月29日     | 32.0%           | 8.8%          | 55.4%          | 18.0%      | 17.8%      |
| ばら撒き型        | 10月9日     | 12.0%           | 4.6%          | 54.2%          | 41.2%      | 0.0%       |
| 改良型          | 10月25日    | 40.0%           | 27.4%         | 45.6%          | 17.0%      | 10.0%      |
| ばら撒き型        | 11月8日     | 8.0%            | 4.6%          | 35.6%          | 59.8%      | 0.0%       |
| <b>改良型</b>   | <b>平均</b> | <b>36%</b>      | <b>18%</b>    | <b>51%</b>     | <b>18%</b> | <b>14%</b> |
| <b>ばら撒き型</b> | <b>平均</b> | <b>10%</b>      | <b>5%</b>     | <b>45%</b>     | <b>51%</b> | <b>0%</b>  |

※各地点20個のワクチンを散布。「摂食地点率」は、1個でもいのししの摂食痕が確認された地点、「摂食率」、「ロスト率」、「未摂食率」は、それぞれワクチン個数をカウント

#### 【比較結果】

##### 「ばら撒き型」



- ・ いのししの誘引に有効
- ・ 散布時の労力が小
- ・ 他動物による盗食リスクあり

##### 「改良型」



- ・ 他動物の盗食防止により、いのししの摂食率が向上
- ・ 未摂食(ワクチン残存)リスクあり



# (報告) アフリカ豚熱防疫演習 (野生いのしし対策)

## ① 防疫演習の概要

- ・ (前年度) 七宗町の国有林で山林での積極的死体搜索及び死体搬出作業の実証的演習を実施。
- ・ (今年度) 基本方針に基づく野生いのししASF防疫措置の全体像について県機関、関係団体への普及を図る。

### 「令和6年度 野生いのししにおけるアフリカ豚熱防疫演習」

- 目 的 野生いのししの感染確認箇所周辺において迅速に初動対応を行なえるよう、県内各家畜伝染病対策支部担当者及び協力団体担当者が防疫措置の全体像と具体的作業イメージを共有する。
- 日 時 令和6年11月12日(火) 10:00~15:30
- 場 所 県立森林文化アカデミー 演習林・テクニカルセンター(美濃市)
- 参加者 農林水産省、農研機構(CSF有識者会議 平田委員)、岐阜大学(CSF有識者会議 浅井委員長)、愛知県、三重県、美濃市、県畜産協会、県森林組合連合会、県森林施業協会、県猟友会、県ペストコントロール協会、県建設業協会、農政部関係課、各農林事務所、家畜保健衛生所 等(県関係所属及び18都県にWeb配信) 約120名
- 内 容 座学: 野生いのしし群でアフリカ豚熱が発生した場合の防疫措置  
実技: 4つの班に分かれ、以下の作業をローテーションで実演・確認  
①死体搜索、②死体処理、③死体運搬・消毒ポイント、④情報管理・電気柵設置

## ② 座学(野生いのししASFの状況と対策、いのししとASFに関する研究)



家畜衛生を専門としない県・団体職員にも、野生いのししASF防疫の重要性と防疫措置の概要を理解していただき、午後の実働演習の内容がよく理解できるよう、動物衛生課永田課長補佐、農研機構平田先生から講義



# (報告) アフリカ豚熱防疫演習 (野生いのしし対策)

## ③ 実働演習

### ・ 死体搜索

実行計画に基づき、設定されたルート进行搜索  
発見時に死体情報を報告、処理班到着までの一時的措置

### ・ 死体処理

その場消毒処理と死体搬出する場合の2パターンを実演

#### 【消毒処理】

搬出できない場合、  
採材、消毒、生分解性  
シートの被覆等処理



#### 【搬出】

採材後納体袋で密閉、  
梱包し運搬班との合流  
地点まで死体を搬出



### ・ 運搬・消毒ポイント

死体を運搬車へ積み込み、消毒ポイントを経由し焼却場へ搬入



### ・ 情報管理・柵設置

各班からの情報とりまとめ、対策本部、支部への報告  
いのしし拡散防止の電気柵の設置実演



## ④ 参加者の意見

- ・ アフリカ豚熱の早期発見、対応の重要性を理解できた。
- ・ 一通りの作業が経験できて具体的にイメージできた。
- ・ 採材作業の際に、汚染が心配される場面があった。

## ⑤ 課題

- ・ 現場で徹底した対応ができるよう、さらに詳細な作業手順を整理し、共有することが必要。

## 議題3 その他 報告事項等

---

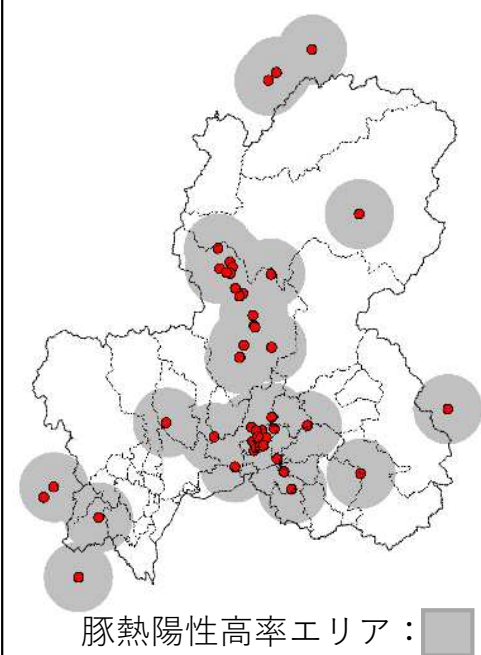
# (1) ジビエ利用再開後の現状と課題

## ① ジビエ事業者申出状況

- 「【岐阜県版】野生いのししジビエ利用マニュアル」を令和4年8月1日に発出。
- 10事業者が再開。1事業者が新規申出。46頭を検査（R4年度:14頭、R5年度:23頭、R6年度:9頭）。全て陰性。

| No. | 処理施設の名称          | 所在地  | R4検査数 | R5検査数 | R6検査数 | 合 計  |
|-----|------------------|------|-------|-------|-------|------|
| 1   | ジビエトミノ           | 関市   | 3 件   | 2 件   | 0 件   | 5 件  |
| 2   | ジビエ工房めいほう        | 郡上市  | 7 件   | 6 件   | 0 件   | 13 件 |
| 3   | 苗木ジビエ            | 中津川市 | 3 件   | 0 件   | 0 件   | 3 件  |
| 4   | 飛騨狩人工房           | 高山市  | 0 件   | 2 件   | 0 件   | 2 件  |
| 5   | 猟師29             | 飛騨市  | 1 件   | 1 件   | 0 件   | 2 件  |
| 6   | 郡上地美恵            | 郡上市  | 0 件   | 2 件   | 0 件   | 2 件  |
| 7   | 株式会社恵那ジビエ        | 恵那市  | —     | 0 件   | 3 件   | 3 件  |
| 8   | GOD HILL WILD    | 飛騨市  | —     | 6 件   | 1 件   | 7 件  |
| 9   | 五宝の滝             | 八百津町 | —     | 2 件   | 0 件   | 2 件  |
| 10  | 自然派工房ほたる         | 恵那市  | 0 件   | 2 件   | 5 件   | 7 件  |
| 11  | 飛騨高山舞地美恵<br>【新規】 | 高山市  | —     | —     | 0 件   | 0 件  |

R6. 12. 20現在



※ No.7、8、9はR5年度から再開。No.11はR6年度に新設の施設。この他、1事業者が未更新により失効。

## ② 課題

- 県下で陽性個体が確認され続けていることから「豚熱陽性高率エリア（捕獲個体の搬入を自粛するエリア）」が減少しない状況。

岐阜県では、陽性個体確認地点から半径10km以内かつ捕獲・発見時から180日以内のエリアを豚熱陽性高率エリアとして定義づけ、ジビエ利用を控えるよう指導している。